

近年、増加傾向！

【オーバードーズによる救急統計について】

オーバードーズとは、薬の過剰摂取に及ぶ行為のことで、用法・用量を守らずに過剰摂取することで、様々な健康被害が起きたり、依存症となるなど、近年、社会問題化しています。

オーバードーズに至る背景としては、家庭や学校、職場等をはじめ、様々な環境でのストレス、また精神障害や希死願望が個別に関連していると思われます。

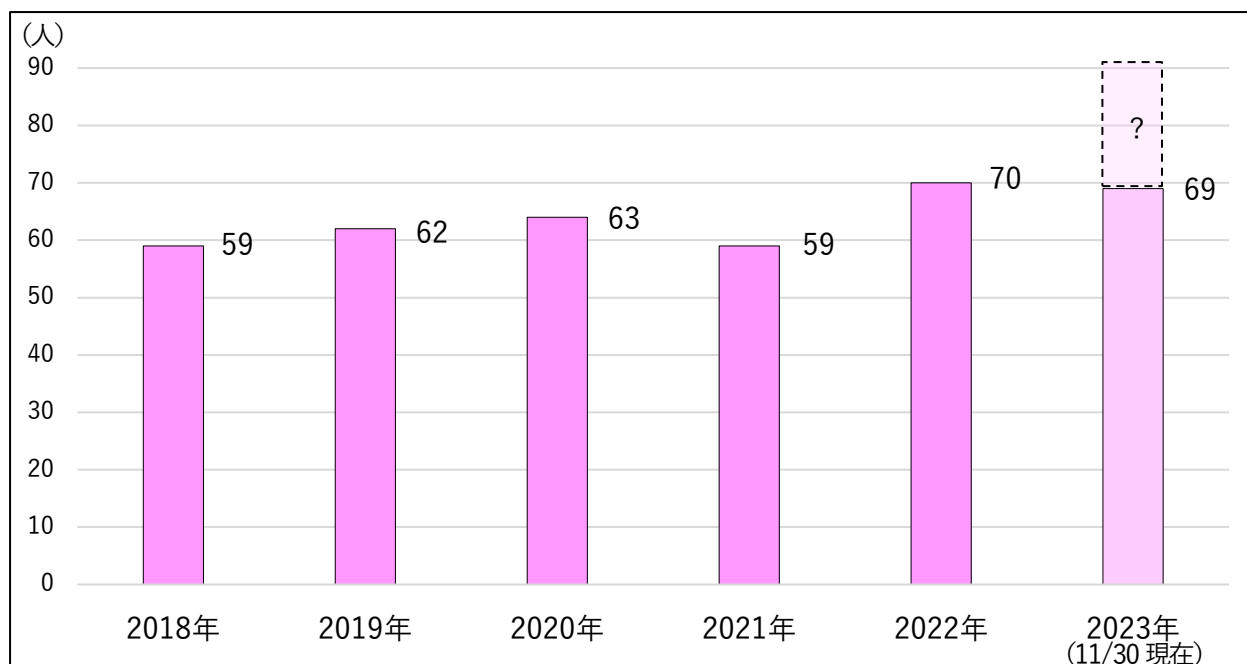
本組合管内では、2018年から2022年までの過去5年間に、313人をオーバードーズで救急搬送しており、近年、搬送者数が増加傾向となっていることから、救急統計の分析結果を関係機関と共有することで、社会的な課題解決に寄与してまいります。

つきましては、以下のとおり救急統計をとりまとめましたのでお知らせします。

※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値

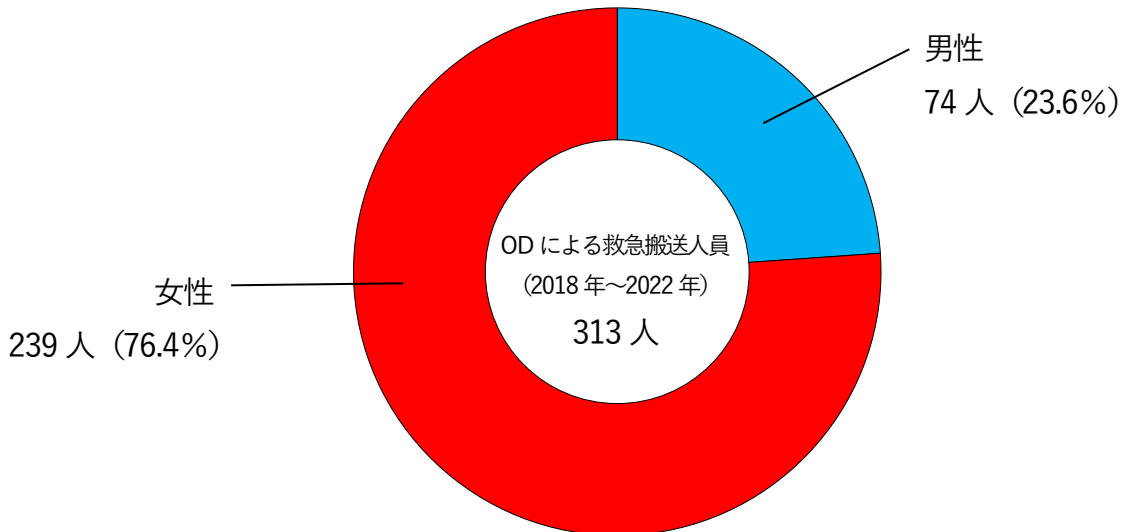
■ 年別の救急搬送人員

過去5年間と今年のオーバードーズによる救急搬送人員をみると、2018年から2021年までの平均値（60.8人）と、2022年及び2023年（11/29現在）を比較すると約15%増加しており、近年、増加傾向であることが分かります。



■ 男女別の救急搬送人員

男女別の救急搬送人員をみると、男性が74人（23.6%）に対して、女性が239人（76.4%）と圧倒的に多いことが分かります。

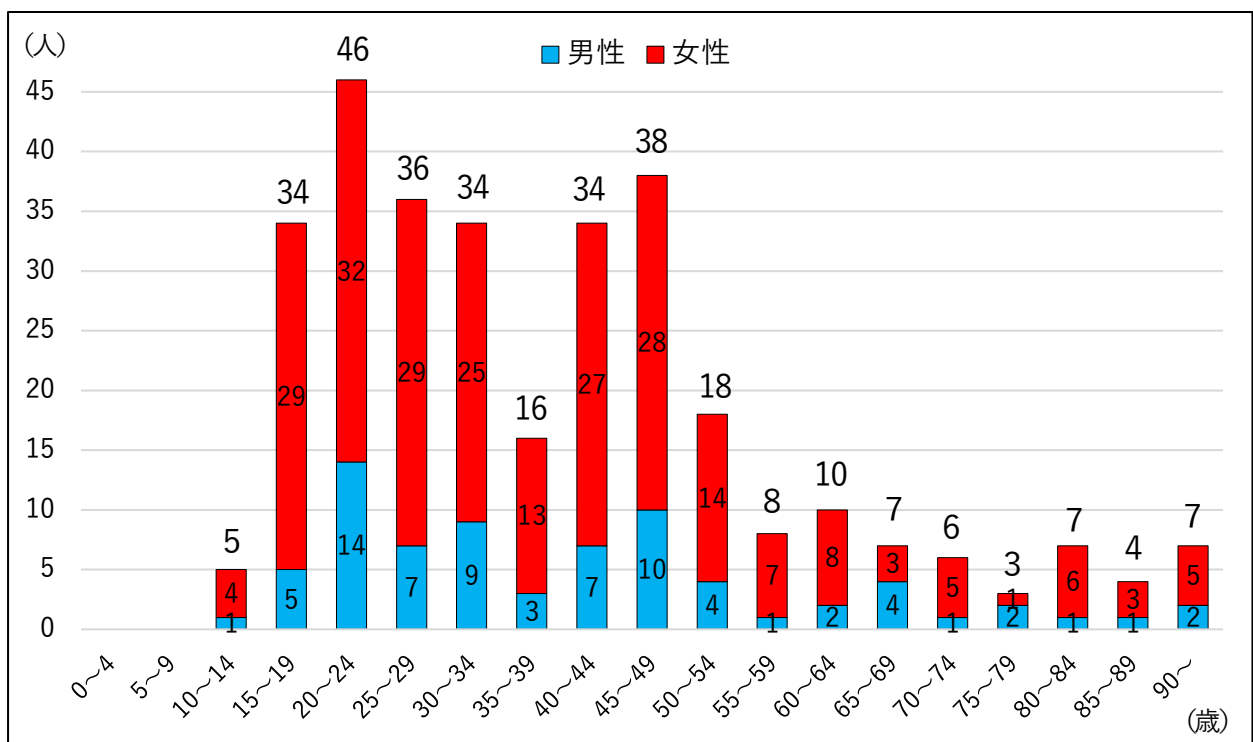


■ 年齢区分別の救急搬送人員

年齢区分別の救急搬送人員をみると、「20歳から24歳」の区分が46人で最も多く、次いで「45歳から49歳」の区分が38人、「25歳から29歳」の区分が36人と続きます。

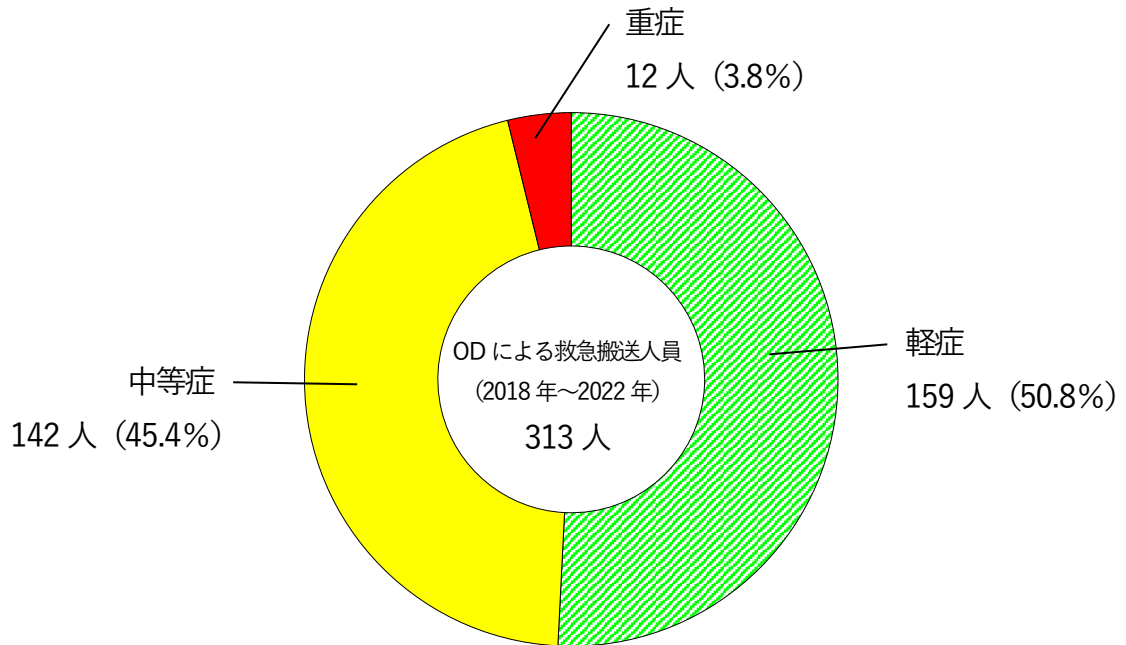
10歳代後半から30歳代前半、また40歳代で多く救急搬送されています。

平均年齢は39.0歳で、最年少は12歳でした。



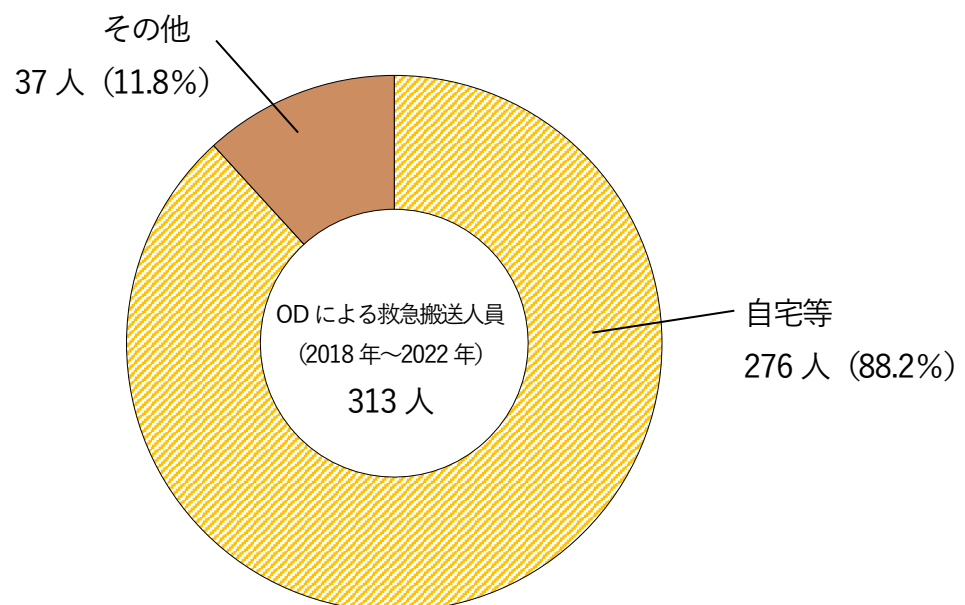
■ 傷病程度別の救急搬送人員

傷病程度別の救急搬送人員をみると、軽症が159人（50.8%）で最も多く、中等症が142人（45.4%）、重症が12人（3.8%）と続きます。



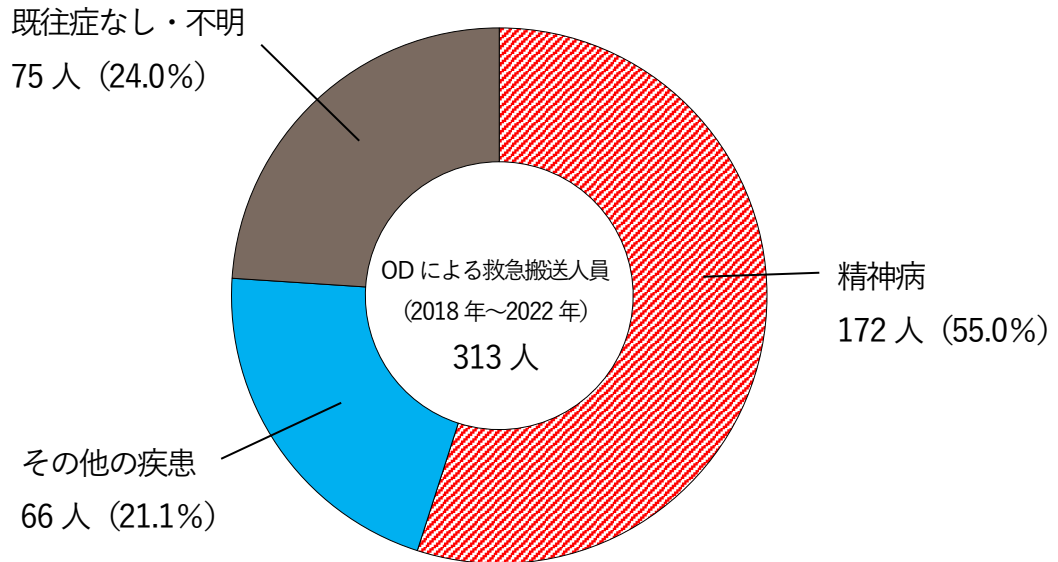
■ 発生場所別の救急搬送人員

発生場所別の救急搬送人員をみると、自宅等が276人（88.2%）で多くを占めていることが分かります。



■ 既往症別の救急搬送人員

既往症別の救急搬送人員をみると、「精神病」が172人（55.0%）で最も多いことが分かります。「その他の疾患」も含め、全体の76.1%が何らかの既往症があることが分かります。



■ 傷病分類別の救急搬送人員

傷病分類別の救急搬送人員をみると、風邪薬等の過剰摂取による「その他医薬品中毒」が137人（43.8%）で最も多く、次いで「鎮静薬・睡眠薬中毒」が128人（40.9%）、「薬物依存」が21人（6.7%）と続きます。

